

国際「異文化理解」

保健体育科 海士部 伸 子
英語科 木 村 政 子

1. 授業の目的

ここ数年、国際理解科目の実践的研究として、一年生を対象とした選択科目「異文化理解」を開講してきた。この科目では、外国人生徒枠で入学した生徒や短期で来ている留学生と、一般の日本人生徒が共に学ぶという形態をとっている。今年度は、2003年度から導入される新指導要領にある「総合」の中に位置づけるべく、さらに内容を精選し、国際理解という視点と共に開発教育の面からも生徒の興味・関心を引けるようにと考え、授業計画を立ててきた。自分たちの知らない「何これ？」をたくさん見つけ、その違和感のルーツを調べることによって異文化をさらに深く理解するという過程を体験させることを主眼として授業案を立てた。

2. 授業案 (本時2時間分)

【対象学年等：2年選択者18名 (内、日本人生徒15名、外国人生徒1名、留学生2名)】

【配当時間数：週1時間 (隔週土曜日2時間)】

本時の目標：①ブータンの高校生に答えてもらった10の質問を通して、彼らの生活や考え方を知る。
②ビデオ視聴を通してブータンでの生活やその考え方をより理解し、日本での生活や日本人の考え方と比較する。

配布資料：①ブータンの高校生の自己紹介文
②クラスの生徒たちの自己紹介文 (各自に返却)
③ブータンの高校生一覧
④ブータンの高校生とクラスの生徒たちの自己紹介内容比較一覧
(10の質問に対する答え)

資料映像：「あなたはいま幸せですか・地球家族2001」(NHK第一)

授業の流れ：1. 資料①③を読み、疑問に思ったことや不思議に感じたことなどを各自がピックアップする。
2. ピックアップしたものを班の中で披露しあい、その中から班でディスカッションしたい内容について選ぶ。

3. ディスカッション後、班の代表がその内容について発表し、全体で意見交換する。
4. 資料④にざっと目を通しながらブータンの高校生とクラスの生徒たちの答えを比較し、双方の相違を探る。
5. 資料映像を見て、理解を深める。

3. 反省点

基本的に2の授業案に基づいて授業を進めることができ、当初の目標もほぼ達成することができたが、唯一、1時間目の終わりに授業案の「授業の流れ」3の、「ディスカッション後の発表と意見交換」の部分に消化不良の感があった。

実際に授業内容が盛りだくさんで、1時間目に割り当てていた内容が若干多めであったこともあり、せっかくの班別意見交換が十分にできなかったことは大いなる反省点であると言える。

月に一度程度の授業進度だったために、この公開授業の内容が前の授業とは直接的につながっていなかったことからこちらの説明部分が多くなったこと、加えて、結果がどのようになるかわからない自由討論を入れたことで、時間調整がうまく行かなかったことが主な原因であると思われる。

しかし逆に、自由討論で出てきた意見の中に意外性のあるものがあり、その後の班別討論が興味深いものになったことも事実なので、組み立てが悪かったとは一概には言えないかもしれない。思い切ってその後に計画していた内容の一部を割愛し、もう少し意見交換に時間を割くべきだったということか。

授業後の研究協議では多くの貴重なご意見をちょうだいした。やはり意見交換をすべきだったというご意見や、班別討論の中で出てきた意外性のある指摘についてはこの授業後にさらに調査し発展させるべきとのご意見もいただいた。

授業者としては、意見交換もそうだが、そもそもブータン王国の高校生を紹介する際に、日本人にはなじみのない彼らの名前についてももっと言及したかったし、また、二時間目の始めに、配布資料の1つである「ブータンの高校生とクラスの生徒たちの自己紹介内容比較一覧」を取り上げた際、もっと生徒たちの反応を引き出したかったという気持ちもあった。

公開授業をするにあたって担当者二人で授業内容を検討していく際にも、全てを授業案の中に盛り込めないジレンマを感じていたので、これはどうしようもないことなのだが、実際に授業を終えてみると、ますますその感が強くなった。その点で、授業立案が非常に難しいということを再確認した次第である。

一年間の流れの中でのひとこまがこの公開授業であったわけだが、生徒たちに後にアンケートを取って見たところ、この公開授業の内容は大変濃いものであったという感想が多くを占めた。その意味ではほっとしているところであるが、やはり授業が自在に展開していく中で、臨機応変な対応と、問題点の掘り下げ方にもう少し工夫をすべきであったと考えている。